

# 茨城県立医療大学付属病院リハビリテーション医学研修カリキュラム

平成20年11月4日

## I 基本方針

リハビリテーション医学の研修を行う医師が、チーム医療における医師の役割を認識し、医療に関する幅広い臨床経験、高度な専門知識及び優れた診療技術を修得するとともに、日本リハビリテーション医学会の認定臨床医又は専門医の受験資格を得ることに寄与するものとする。

## II 研修行動目標

- 1 指導医のもとに入院及び外来の患者の受け持ち医となり、診断・治療を行う。
- 2 診療グループで行う回診、カンファランス、抄読会に参加する。
- 3 チーム医療のリーダーとしての役割を遂行できる。
- 4 リハビリテーション医療に関する臨床研究を行い、学会発表及び論文発表ができる。
- 5 日本リハビリテーション医学会の臨床認定医又は専門医の資格を取得する。

## III 研修カリキュラム

- ・日本リハビリテーション医学会の『リハビリテーション医学卒後研修ガイドライン』に基づき、本院の特性を勘案して研修プログラムを作成してある。
- ・研修医はこれらのプログラムを組み合わせ希望に沿ったカリキュラムを作成することができる。
- ・一般研修医は1年間、専門研修医は3年間のカリキュラムとする。

### 1 共通プログラム

日常実地診療と各プログラムのなかで経験し、理解するものとする。

#### (1) 研修目標

リハビリテーション医学・医療の総論を理解し、種々の疾患や障害に対してリハビリテーション的な対応がとれるようになることを目標とする。

#### (2) 行動目標

- ① 入院及び外来(在宅)患者を通して、診断・評価・リハビリテーションプログラミング・経過モニタリングができるようになる。
- ② リハビリテーション関連職について理解し、自らもアプローチできる知識と技術を得るように努める。
- ③ リハビリテーション関連の社会制度についての知識を身につける。
- ④ 患者の社会生活全体を見すえたマネジメントができるように心がける。

#### (3) 研修内容

- ① リハビリテーション医学概論
  - a) リハビリテーションの理念

- b) 歴史と現状
- c) リハビリテーションの進め方
- ② リハビリテーション医学の基礎
  - a) 運動学
  - b) 姿勢と歩行
  - c) 神経生理学
  - d) 運動生理学
- ③ リハビリテーション診断学
  - a) 障害学
  - b) 診断と評価
- ④ リハビリテーション治療学
  - a) リハビリテーション入院患者の一般医学的管理・治療
  - b) リハビリテーション看護
  - c) 理学療法
  - d) 作業療法
  - e) 言語療法
  - f) 臨床心理学
  - g) 義肢・装具・車いす
  - h) ソーシャルワーク
- ⑤ 地域リハビリテーション
- ⑥ 関連法規
- ⑦ その他

## 2 個別プログラム

### A 神経障害プログラム

#### (1) 研修目標

この研修プログラムは、神経系疾患及び筋疾患について、診断・評価及びリハビリテーションをはじめとする治療やマネージメントについての深い臨床経験と技術、高度な専門知識を修得することを目標とする。

#### (2) 行動目標

- ① 外来及び病棟で神経・筋疾患患者の受持ち医となり、指導医のもとで、診断・評価、治療を行い、チーム医療の要として機能できるようになる。
- ② 神経・筋疾患及び障害に固有の生理学的な検査技術を修得する。
- ③ 神経・筋疾患に特徴的な障害の機能評価ができ、適切なリハビリテーションの指示ができる。
- ④ 神経・筋疾患を対象とした臨床研究を行い、成果を発表する。

#### (3) 研修内容

- ① 診断・評価
  - a) 神経学的診察の実施と所見の記載

- b) 基本的な神経系画像の読影
  - c) 基本的な神経生理学的検査の実施と判読
  - d) 筋生検, 末梢神経生検の介助と実施
  - e) その他
- ② 主な対象疾患
- a) 脳血管障害
  - b) 神経変性性疾患
  - c) 末梢神経障害
  - d) 筋疾患
  - e) 頭部外傷後遺症
  - f) その他
- ③ リハビリテーション治療とケアプラン
- a) リハビリテーション
    - ・ 主な神経・筋疾患における医学的リハビリテーション治療学の理解
    - ・ 神経・筋疾患について, 病態に基づいた評価と治療計画立案
  - b) ケアプラン
    - ・ 経口摂取困難な患者に対する適切な栄養方法の判断
    - ・ 呼吸不全の評価と適切な治療, 対処
    - ・ 脳血管障害危険因子についての検査計画立案と脳血管障害の系統的な治療計画立案
    - ・ 生活習慣と疾病(特に脳血管障害)との関連の分析
    - ・ 各種神経・筋疾患固有の治療計画立案と実施
    - ・ 各種疾患に伴う疼痛管理の計画立案と実施
    - ・ 神経難病患者に対する各種サービスの調整
- ④ その他
- この神経障害研修プログラムは, 日本リハビリテーション医学会の認定臨床医資格取得コースであるとともに, 日本神経学会の認定医取得コースを兼ねている。
- (日本神経学会教育関連施設)

## B 運動器障害プログラム

### (1) 研修目標

運動器疾患について, 整形外科的な診断・評価及びリハビリテーションや外科的治療法についての高度な臨床技術と広い専門知識を修得することを目標とする。

### (2) 行動目標

- ① 運動器疾患患者の受け持ち医となり, 指導医のもとで診断・評価を行い, 治療の適応を判断できる。
- ② 運動器疾患患者の入院の適応を判断できる。
- ③ 入院患者の主治医となり適切なリハビリテーション指示を出し, その経過を見ることができきる。

- ④ 必要な検査・手術の助手や術者となれる。

### (3) 研修内容

- ① 診断・評価
  - a) 整形外科的診察の実施と所見の記載
  - b) 基本的な画像検査の判読
  - c) 基本的な検査の実施と判読
  - d) ADLの評価・機能評価
  - e) 装具の適応決定とオーダー
- ② 主な対象疾患
  - a) 関節障害
  - b) 脊椎・脊髄障害
  - c) 四肢切断
  - d) 腱・末梢神経障害
  - e) 先天性疾患
  - f) 手の外科一般
  - g) スポーツ障害
- ③ 手術とリハビリテーション
  - a) 骨・関節
  - b) 脊椎・脊髄
  - c) 手の外科
  - d) 腱, 靭帯, 末梢神経
  - e) 切断

## C 小児疾患プログラム

### (1) 研修目標

このプログラムでは小児疾患の診断・評価を行い、リハビリテーションをはじめとする治療について理解し、さらに在宅医療、訪問教育について研修することを目標とする。

### (2) 行動目標

- ① 外来及び病棟で小児患者の受持医となり、指導医のもとで診断、検査及び治療を行い、小児リハビリテーションに関する研修を行う。
- ② 小児慢性疾患におけるリハビリテーション医学を理解し、他医療職に適切な治療指示ができる。
- ③ 長期療養児の在宅医療、訪問教育について、適切な医学的、教育的指示を与えることができる。

### (3) 研修内容

- ① 診断・評価
  - a) 小児科的診察の実施と所見の記載
  - b) 基本的な画像の読影

- c) 基本的な小児神経生理学検査の実施と判読
  - d) 発達知能テスト, 心理テスト, 親子関係診断テスト等
  - e) その他
- ② 主な対象疾患
- a) 脳性麻痺
  - b) 広汎性発達障害
  - c) 神経・筋疾患
  - d) 先天性脳奇形
  - e) 奇形症候群
  - f) 染色体異常
  - g) 先天性心疾患
  - h) 先天性代謝異常
  - i) 先天性感染症
  - j) 心身医学的問題児
  - k) 呼吸器疾患
  - l) アレルギー疾患
  - m) 感染症
  - n) その他各種疾患に伴う成長・発育障害, 言語障害, 摂食障害
- ③ リハビリテーション治療とマネージメント
- a) リハビリテーション
    - ・ 小児慢性疾患におけるリハビリテーション治療の理解
    - ・ リハビリテーションの評価
  - b) マネージメント
    - ・ 家族への摂食障害の指導
    - ・ 障害児の家族の支援
    - ・ 教育機関との連携
- (4) その他
- このプログラムは日本リハビリテーション医学会認定医の受験資格取得コースであるとともに、日本小児科学会認定医の資格取得コースを兼ねている。

## D 内部障害プログラム

### (1) 研修目標

この研修プログラムは、内部障害を有する患者のリハビリテーション医療を実践するために必要な内科的な基本的な診断・評価及びリハビリテーションをはじめとする治療やマネージメントについて基本的な理解を修得することを目標とする。

### (2) 行動目標

- ① 外来及び病棟で内部障害を有する患者の受持ち医となり、指導医のもとで診断・評価, 治療を行う。
- ② 内部障害のなかでリハビリテーションが必要な疾患の判断ができ, その依頼, 経過観察が適

切に行える。

③ 内部障害疾患に関してテーマを定めて臨床研究を行い、その成果を発表する。

(3) 研修内容

① 診断・評価

- a) 内科的診察の実施と診断・治療計画の立案
- b) 基本的な検査の実施とその判読
- c) 慢性呼吸不全患者の病態の的確な把握
- d) 呼気ガス分析装置を用いた呼吸代謝・運動負荷試験の介助と実施

② 主な対象疾患

- a) 循環器疾患
- b) 呼吸器疾患
- c) 消化器疾患
- d) 代謝・内分泌疾患
- e) 膠原病
- f) その他

③ リハビリテーションと治療

- a) 循環器、呼吸器疾患などにおけるリハビリテーション治療学の理解
- b) リハビリテーションを必要とする疾患で病態に基づいた評価や適切な運動負荷量の設定
- c) 慢性呼吸不全患者の生活指導、薬物療法、在宅酸素療法及び在宅レスピレーターの導入の判断
- d) 在宅酸素療法、在宅レスピレーターを施行している患者の経過管理と地域連携医療の実施
- e) 代謝疾患などにおける運動療法の理解